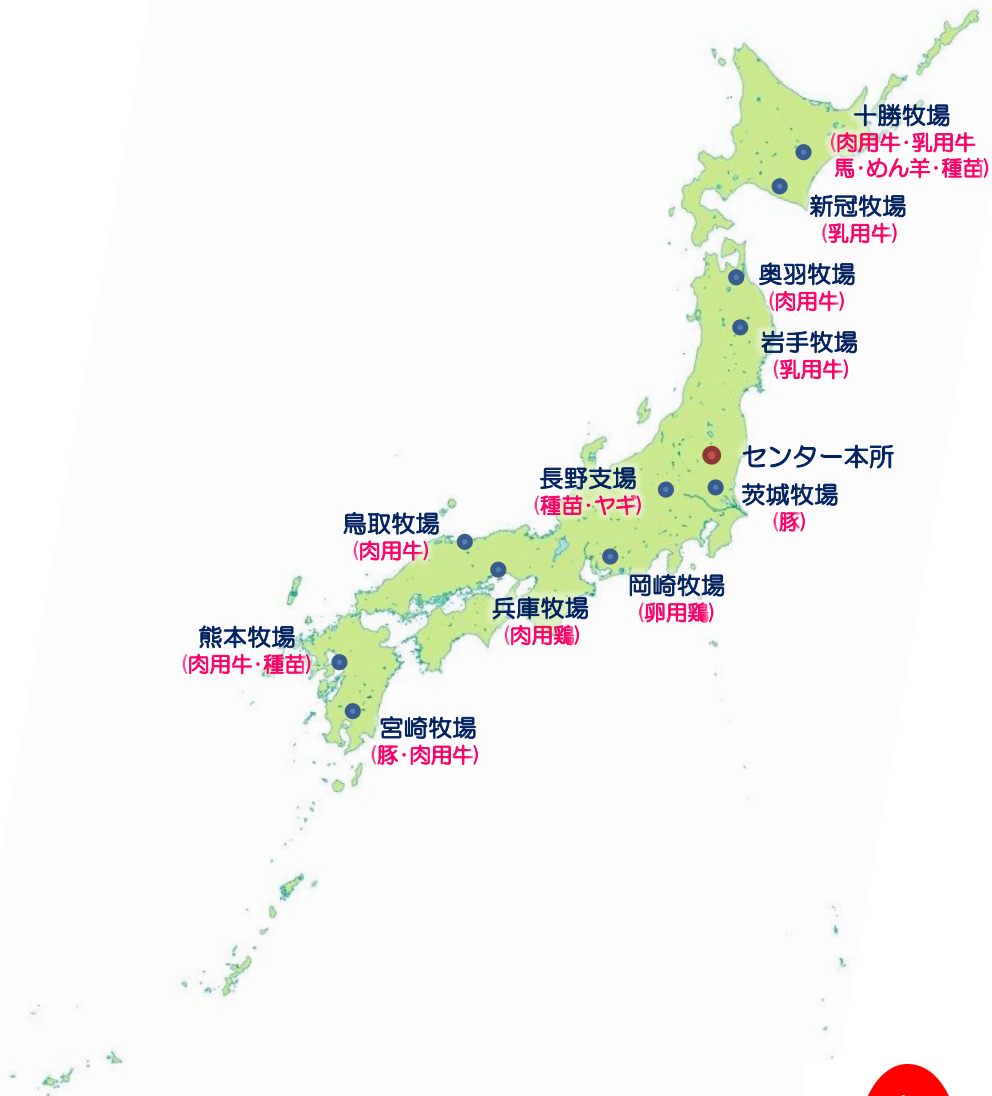


業務紹介
パンフレット
(技術系職員)
畜産・飼料作物関係

独立行政法人 家畜改良センター

「日本の畜産 改良と技術で育てます」

家畜改良センターは、畜産の発展と国民の豊かな食生活に貢献することを目的とした、1本所10牧場1支場からなる、全国組織の独立行政法人です。



NLBC

業務について

「小さなタネから大きなウシまで」

家畜改良センターの業務は多岐にわたります。

● 家畜の改良増殖の推進

- ・畜産物の需要の変化に応じた優良な種畜・種さん等の生産・供給
- ・遺伝的能力評価の実施
- ・種畜検査の実施
- ・家畜の遺伝資源の保存



宮崎牧場で作成したデュロック種系統豚「ユメサクラエース」



新冠牧場で生産した種雄牛「NLBC バルサバベツジ」

● 飼料作物種苗の生産・供給と検査

- ・日本の多様な気候に適した飼料作物種子及び種苗の生産・供給
- ・国際的な種子品種証明制度に基づく飼料作物種子の検査・証明



岡崎牧場で作出した「岡崎おうはん」



鳥取牧場で生産した種雄牛「光平栄」

● 畜産新技術の開発・実用化

- ・有用形質関連遺伝子等の解析
- ・食肉の食味に関する評価手法の開発
- ・繁殖関連技術の開発・実用化
- ・飼養管理関連技術の開発・実用化



指定種苗の発芽率検査



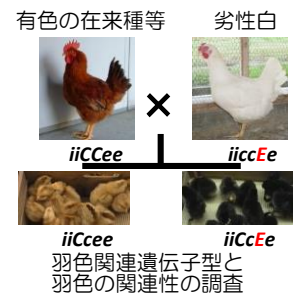
コンバインによる種子の収穫

● 牛トレーサビリティ業務 ● 法律に基づく検査

- ・全国の牛のトレーサビリティに必要な個体識別番号や出生異動履歴などの情報の管理、公表
- ・家畜改良増殖法に基づく立入検査
- ・種苗法に基づく指定種苗の集取・検査



耳標に印字された個体識別番号



● 技術の普及指導 ● 外部支援

- ・開発された技術の生産現場への普及のための研修会の実施、海外技術協力
- ・国内における家畜伝染性疾病や自然災害発生時等の外部支援・協力



飼料自給率向上のための研修会



緊急時における粗飼料等支援

畜産系職員 の業務 について

技術系職員の仕事とは？

- 家畜等の改良増殖・種畜検査・飼料作物種苗増殖等に関する業務や家畜改良に関する実用新技術の調査・研究等に関する業務、牛トレーサビリティ業務等を行っています。

例えば、候補種雄牛の生産を行っていますが、優秀な種雄牛の生産には、母牛となる種雌牛も重要ですので、血統や検定成績、ゲノム評価値、個体そのものをよく観察し、将来の種雄牛候補の母牛の選定を行います。

一方で、全国的な家畜の改良に貢献するため、広域に渡って家畜の泌乳能力や産肉能力、血統、ゲノム等の情報を収集し、遺伝的能力評価を実施しています。

- また、牛トレーサビリティ業務では、牛の管理者等からの届出を牛個体識別台帳に記録し、インターネットにて公表しています。届出のための各種システムの運用・管理や、届出方法に関する問合せへの対応に加え、データベースを活用して、牛の管理者本人や都道府県の畜産担当者、食肉流通の企業等の要望に合わせ牛の個体識別情報を取りまとめて情報提供しています。

先輩の声

家畜改良センターが行う様々な業務には、多くの職員が関わっています。各分野で活躍する若手職員を紹介します。

熊本牧場種苗課職員
(平成30年度採用)

日本の畜産をより良いもの
にしていきたいと思います。

私は採用後、熊本牧場に配属され、粗飼料生産担当を経て、現在は、海外で増殖する飼料作物原種子の生産・配布を担当しています。

粗飼料生産では、飼養している牛に給与する粗飼料の生産を行うのですが、飼養管理の担当者と相談し、どの程度の質と量が必要なのか、作業時期を考慮し、どのほ場にどの草種・品種を作付けするか計画を立案するなどの業務を行いました。

飼料作物原種子の生産・配布では、ほ場内に異型がないかの確認、水分測定による収穫時期の判断等を行っています。また、生産した種子について、在庫量の確認、試験研究機関への配布などの業務を行っています。このように、家畜改良センターでは、家畜の改良だけでなく、粗飼料生産から見た飼養管理、国内の気候に適した優良品種の普及等幅広く畜産に関わるチャンスがあります。

様々な角度から日本の畜産をより良いものにしていきたいと思います。一緒に働けることを楽しみにしています。



茨城牧場業務課職員 (平成30年度採用)

日本の畜産に貢献
できます。



私が家畜改良センターを志望した理由は実際に家畜に触れつつ、様々な技術開発や取り組みに携われることが魅力的だと感じたからです。

採用後は茨城牧場に配属され、純粋種豚（大ヨークシャー種、ランドレース種）における繁殖性の向上を目的とした改良増殖を担当しています。

通常は午前中に豚舎業務として、子豚の選抜や超音波測定器でのロース芯面積等の測定を行っています。午後には午前のデータを整理したり、家畜の資質を評価する指標となる育種価を求めるなど、主に事務仕事を行っています。

自分達が飼養し、選抜した豚が種豚となり全国の農家に配布されたり、精液が購入されていくところを見ると、とてもやりがいを感じる一方、その責任感に身の引き締まる思いとなります。

家畜改良センターでは、豚に限らず牛（肉・乳）、鶏（肉・卵）、馬、めん山羊といった家畜の改良に取り組んでいます。共に日本の畜産のために働きましょう！

個体識別部 個体識別情報課係長 (平成24年度採用)

いろいろな仕事に
チャレンジできます。



私は採用後に新冠牧場に配属され、乳用雌牛担当を4年間経験した後、個体識別部の情報提供担当として、農家の方や都道府県の畜産担当者へ、牛個体識別データベースを利用した情報提供を行っています。

牧場に在籍していた間は、農家の方と直接お話しする機会は少なかったのですが、毎日のように農家の方から問合せをいただき、対応させていただく中で「こうしたら届出がしやすい」「こんな情報を要望している」と現場の生の声を聞いて、日々の業務にすぐに生かすことができています。

また、乳牛に関する知識だけだったのですが、牛個体識別データベースを通して、肉牛の飼養管理、データベースの仕組み、システムの管理等のかなり幅広い知識を得ることができて自身の能力向上を実感することができました。

畜種も勤務地も業務内容もバリエーション豊かな家畜改良センターで自身を飛躍的に成長させることができるかもしれません。皆さんと働けることを楽しみにしています。

改良部 情報分析課係員 (平成31年度採用)

全国の乳用牛の改良
に貢献しています。



私は採用後、本所の改良部情報分析課に配属され、乳用牛の遺伝的能力評価に関する業務に携わっています。

遺伝的能力評価値は家畜の改良に活用される情報で、農家から集められたデータをもとに、統計的な分析を行うことで推定します。

評価値の公表に至るまでには、関係機関とのデータのやりとりや評価プログラムによる評価値作成、評価値を取りまとめた公表資料の作成など多くの作業を行います。

評価業務は、遺伝統計やプログラミングなど大学で専攻してきた分野とは違った知識が必要になることが多く、戸惑うこともありますが、先輩の助言や協力を得て仕事に取り組むことができおり、自分自身としてもスキルアップを実感しています。

家畜改良センターは研修会などもたくさんあり、仕事に関わる知識について学ぶ機会に恵まれていることも魅力のひとつです。

これから日本の畜産を支える存在となる皆さんにお会いできることを楽しみにしています！



最新情報・詳細はホームページをご覧ください <http://www.nlbc.go.jp/saiyo/>

[見学申込み・お問合せ先]

〒961-8511

福島県西白河郡西郷村大字小田倉字小田倉原1番地

独立行政法人 家畜改良センター 総務部人事課 TEL：0248-25-2759（直通）